

田原坂

特集 実地検証 「宮山争奪戦」

―西南戦争を考古学するその2―

薩摩軍主要陣地にして
政府軍主要攻撃地「宮山」

熊野座神社の攻防を復元する

豆が飛び散る戦場
炎に包まれた社殿

杉木に撃ち込まれた銃弾が語るもの

新しく生きよう。
NEO ONE
KUMAMOTO

特集 実地検証「宮山争奪戦」

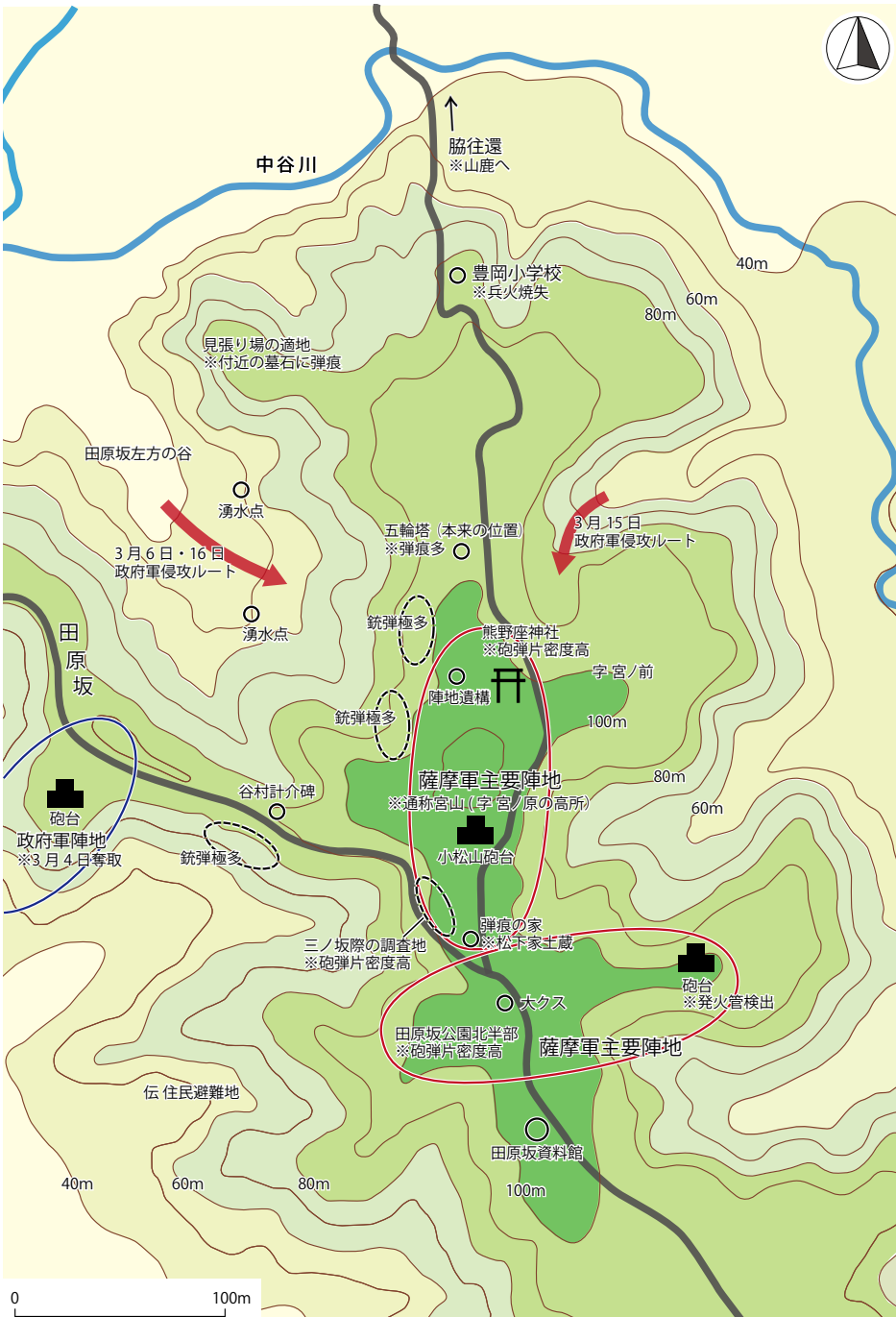
— 西南戦争を考古学する その2 —

激戦、田原坂の戦い。なかでも、宮山と通称される高所は薩摩軍の主要陣地となり、砲台も設けられ、それゆえ一帯では特に激しい戦い「宮山争奪戦」が繰り広げられた。熊本市は、田原坂の戦いの主要舞台である豊岡台地において考古学的手法を踏まえ、現地調査を実施してきた。これにより見えてきた「宮山争奪戦」の実態を紹介する。

宮山争奪戦の経過

3月4～20日の田原坂の戦い。様々な文献資料に、連日のように宮山争奪戦に関する記事が認められる。なかでも具体性が高いもの（激しい戦いがあった）を列記する。

- 6日：政府軍 田原坂左方の谷から進撃。3つの塁を抜き、熊野座神社に放火。また、対岸の二俣に砲壘2座を増築、田原坂背後の塁（宮山の陣地）を砲撃。薩摩軍 午前10時頃より政府軍歩兵の来襲、持ち場を捨て一隊を引き揚げ。
- 8日：政府軍 宮山にて猛烈銃撃、さらに銃剣を携え砲台に呐喊。2つの塁を奪取。薩摩軍 宮山から砲撃。一方、政府軍からの砲撃間断無し（物量差示す）。
- 15日：政府軍 午前6時頃、北方より宮ノ前（熊野座神社の東側一帯）に進出。薩摩軍 宮ノ原（同神社の南側）より、抜刀にて1時間ほど応戦。
- 16日：政府軍 田原坂左方の谷から進撃。薩摩軍 宮ノ原より押し下して下射。



宮山の位置と周辺状況

宮山は、小字「宮ノ原」の高所一帯を指し、田原熊野座神社（以下「熊野座神社」）が鎮座することから呼び馴らわされた通称である。豊岡台地の最高所にあつて四方より支谷が入り込み、防御の適地というだけでなく、田原坂を上りきった箇所から分岐して山鹿へと続く脇往還が延びており、交通の要所でもある。薩摩軍は、この絶好の要害を主要陣地とした。前号（vol.11）で特集した田原坂公園北半部とともに薩摩軍にとっての本丸となり、同時に政府軍の主要攻撃目標ともなった。

宮山の景色

薩摩軍の記録では、宮山に設けた薩摩軍砲台を「田原坂北之手松山台場」・「小松山台場」と記している。「北之手」・「山」は、田原坂三ノ坂の北側高所にあったという意味であろう。



熊野座神社北東側の支谷。3月15日、政府軍はこの谷筋から侵攻したとみられる。



正面の高所付近に砲台を設けたとみられる。奥の矢印は熊野座神社の鎮守の森。



二ノ坂の古写真。この一帯には松が繁り、「松山」の名の由来になったとみられる。

田原坂左方の谷

北西に広く開口する田原坂左方（北西側）の支谷は、政府軍の宮山侵攻の主要ルートであったとみられる。谷筋には、政府軍が駆け上がったであろう道が残っている。



熊野座神社の西側背後。谷筋道の突当り付近には小銃弾が極く多かったという。



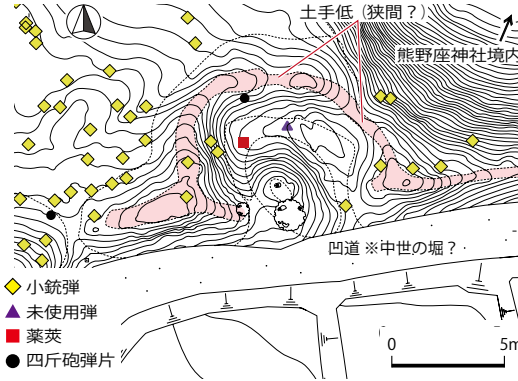
谷筋上位の道、通称「観音坂」。宮山の北西側へまっすぐに伸びている。



谷筋から宮山を望む。政府軍は切り立つような斜面を上ったことがうかがえる。



右図を東側から見た写真



熊野座神社境内の南西に隣接する陣地遺構

▶ 陣地内出土の薬莖・未使用弾
※火点を示す。未使用弾は薬莖(緑青)が僅かに残る。



▼ 陣地遺構の想定復元



宮山に残る陣地遺構

個別の陣地構築に際しては、地形・地物の利用、創意工夫、資材現地調達、短期間などが求められ、その形状は様々である。
宮山では、熊野座神社境内の南西に隣接し、境内より約5m高く視射界が広い位置において陣地遺構が確認されている。半円形と直線を組み合わせた形に土手を巡らせ、北側・北東側に向け射撃するための胸壁で、薩摩軍が構築したとみられる。
なお、豊岡台地全体で見ると、他に溝状の踏み分け道や段畑を利用した陣地遺構も確認されている。

豆が飛び散る戦場の述懐。宮山争奪戦では・・・
「我軍ハココニ豆俵ヲ以テ台場ヲ築キ、敵ノ銃丸ガ台場ニ来タル毎ニ我々ノ頭ニバラバラト当たりタリ」
現地から奪った豆俵を胸壁に積んでいたであろう。
切迫した状況下で陣地が構築されていたことがうかがえる。

熊野座神社—軍用遺物の分布が語るもの



スナイドル銃薬莖



スペンサー銃薬莖



スナイドル銃未使用弾2点



スナイドル銃弾



神社境内（南東から）



境内南側の薬莖集中部
※赤串は薬莖、黄串は小銃弾

熊野座神社は、政隆両軍が攻守を入れ替えながら戦いを繰り返した地であり、また当時の地形が良好に残っているとみられるため、地元
の許可を得たうえで金属探知機を用いた調査を行なった。
結果、多くの軍用遺物が検出され、火点（小銃の発射位置）を示す
薬莖の集中が認められることなどから、その分布は当時の原位置をほ
ぼ留めており、戦いの実態をうかがい得るものと判断された。

薬莖の集中部分、薬莖と小銃弾の集中が重なる部分は陣地（胸壁）があった箇所とみられる。小銃弾集中はこれを狙ったものだろう。なお、スナイドル銃未使用弾全9点の多くが、薬莖近くで検出されていることも陣地存在の傍証といえる。
これによれば、陣地は境内の道際・平坦地・背後の段上の三段に構築されていたと想定される。



熊野座神社における遺物分布・陣地（胸壁）想定図

熊野座神社一陣地の様子がうかがえる資料

箱内の弾薬包はレブリカ
(各10発入り)



田原坂資料館蔵の弾薬箱
※蓋に「スナイトル実包四百四拾
發 砲兵支廠」の墨書がある。

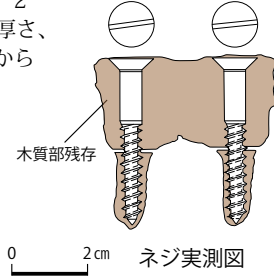


弾薬箱内面

木質部が腐植せずに残っており、2本1組で、その間隔、木質部の厚さ、木目の方向が一致することなどから使用部位が判明した。



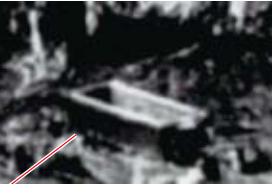
検出状況



ネジ実測図

弾薬箱のネジ

境内平坦地の南寄りで見出された真鍮製のネジ。スナイドル銃弾の弾薬箱の部品と考えられる。
陣地内であればその資料といえる。付近で見出された葉莖が全てスナイドル葉莖であることも注目しておきたい。



陣地跡の古写真（植木）
※土のうを積んだ胸壁の脇に廃棄された弾薬箱が写っている。
ネジの検出から、熊野座神社でも同様の光景があったとみられる。

手てんご葉莖



0 2cm

手てんご葉莖
写真・実測図

「手てんご」——聞き慣れない言葉であるが、手慰み、手悪戯といった意味である。
境内の北東部、道際から検出したスナイドル葉莖の筒部片は、明らかに意図的に潰され、折り曲げられていた。道際に設けた胸壁に握る銃卒が、戦闘の合間に手で玩んだのであろう。



手てんごの想定（『年刊田原坂 vol.10』表紙）

鉄鍋の把手・胴部片

鉄鍋で料理？



鉄鍋片は四点。いずれも境内平坦部北東寄り、胸壁想定域の背後から検出された点が注目される。

第一旅団会計部長 川口武定『従征日記』には鍋に関わる記述が見られる。

- 陣営の雑具使用・消費表に「大鍋9個」。
- 3月17日の記事。鶏肉を蒟蒻・牛蒡と一緒に煮る、牛肉を切干大根と一緒に煮るなど。

熊野座神社一砲撃目標となった主要陣地



▲ 政府軍二俣瓜生田砲台から見た豊岡台地
※熊野座神社の鎮守の森は砲撃の目安となったと考えられる。

▲ 政府軍砲台と宮山陣地の位置
※宮山はいずれの砲台からも射程内。なお、100 mあたりの砲弾片点数の最多は三ノ坂際の調査地で、政府軍砲台から見れば宮山の最前面にあたる。

熊野座神社で見出された軍用遺物における組成の大きな特徴は、砲弾片の比率が高いことである。
検出数は七十九点（主に四斤砲弾弾殻片）。百平米あたりの点数は〇・九九点で、これは豊岡台地上の各調査地の平均〇・三三点を大きく上回っている。

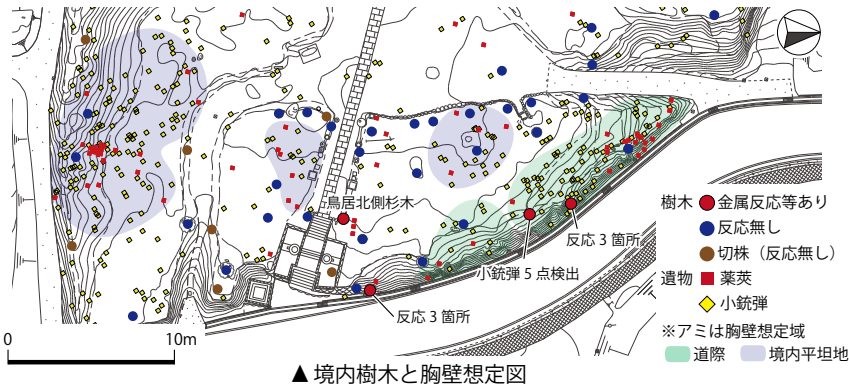
接合・復元した四斤砲弾 ▼

※ほぼ完形に復元。破片はまとめて出土した。着弾時、破裂前に土にめり込み、破片が飛散しなかったためである。



樹木を弾除けに射撃

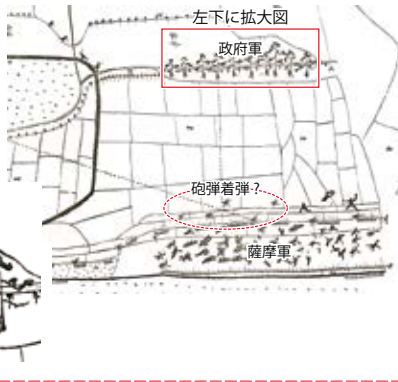
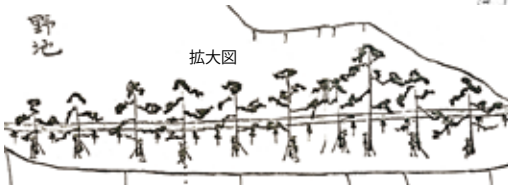
境内（陣地）の道際には樹木が多く、防御の弾除けになる一方、攻撃の際には邪魔になったであろう。そのため、射界がひらける道路際に胸壁を設けたとみられ、これは、道路際に葉莢が多いことからもうかがえる。東側から攻撃する際は、まずはこの胸壁に拠る射手を狙ったであろう。道際の樹木に金属反応が認められるのは、このことを示すと考えられる。



▲境内樹木と胸壁想定図

銃肥隊士 永野勇七述懐録の付図 ▶

※大正4年（1915）、62歳となった永野勇七が山鹿口の戦い（鍋田付近と推定）の戦況を描いたもの。政府軍の銃兵が松並木に拠っており、「松ノ根ノ兵ハ松ヲ小立ニシテウチマス」とある。

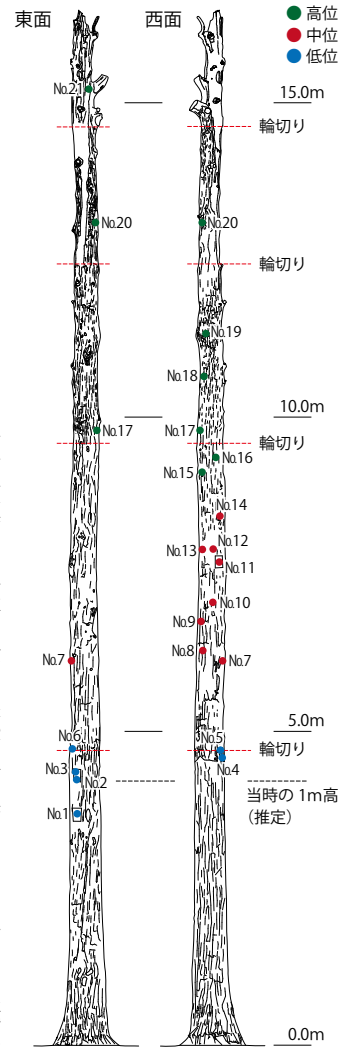


熊野座神社— 境内樹木から見た戦況

「考古学」といえば、調査対象は地下というイメージが強いが、西南戦争などの戦跡遺跡においては地上もその対象となる。構造物や樹木などである。

熊野座神社境内の樹木は好例であり、金属探知機を用いた調査を行なったところ、四本について反応が認められた。うち折損のため伐採した二本について反応箇所を彫り込んだり、輪切りにするなどしたところ、小銃弾・砲弾片の実物が検出された。

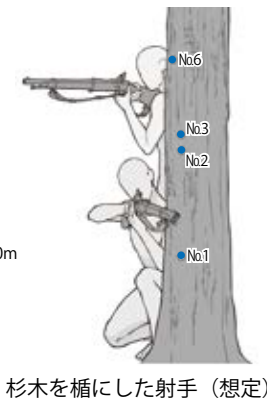
注目すべきは、金属反応があった位置である。銃撃された方向を示すものであり、このことから戦況の想定が可能となった。



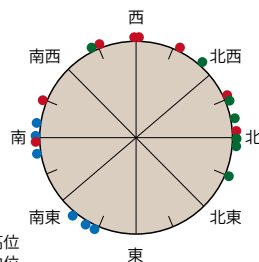
杉木金属反応箇所立面図

杉木の金属反応箇所に見る戦況

鳥居脇北側の杉木の金属反応箇所（高さと向き）には概ね相关性が認められ、これは次のような戦況を示すと想定される。
 低位（No.1～6）は主に南東側高所からの撃ち下し弾で杉木を楯にした射手を狙ったもの、中位（No.7～14）は西側の境内背後段上からの防御弾、高位（No.15～21）は北側からの仰攻弾または弾雨の可能性が有る。



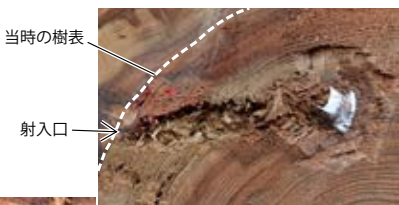
杉木を楯にした射手（想定）



杉木銃撃方向模式図



鳥居脇北側杉木への攻撃方向想定図



杉木から検出された小銃弾



和鏡片が語るもの



検出された和鏡片
※被熱により歪み、変色している。

神鏡。あるいはご神体か。破片のため不明だが、中世の型式ではある。江戸時代の地誌『肥後国誌』に、本神社は肥後の中世領主菊池氏の創建とあり、これを傍証する資料といえる。

本殿妻側の水神彫刻に付けられた由緒札には墨書で「明治十年九月」とあり、このことから、社殿は戦間後間もない時期に再建されたと考えられる。地域の鎮守社に対する人々の厚い信仰がうかがわれる。社殿には多数の弾痕や突き刺さった銃弾の実物が認められるが、これらは再建時に周辺の樹木を建材としたためと考えられる。

炎に浮かび上がったご神体の怪

境内前にある戦後五〇年の玉垣建設記念碑。碑文には、薩摩兵高崎能昌が不思議にも燃え盛る社殿上の「炎光」にご神体が現れるのを見、郷里種子島を持ち帰って守護神として祀った。大正七年、このことを聞いた生田伊八はこれを請い受け、改めて奉安したとある。

なお、ご神体が何かは不明である。

熊野座神社一兵火を受けた社殿

三月六日、宮山争奪戦の緒戦。近衛歩兵第一連隊の岡良頼少尉率いる右半隊は田原坂左方の谷を駆け上り、薩摩軍が拠る熊野座神社に放火。社殿は兵火に包まれた。このことを示す資料を紹介する。

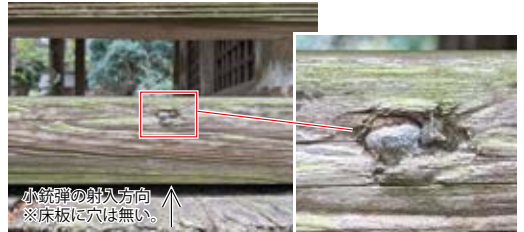


玉垣建設記念碑
※大正14年造。2年前の関東大震災以降に普及したコンクリート製である。

社殿の再建を示すもの



不自然な方向から撃ち込まれた拝殿の弾痕
※左は、弾の通過方向からみて、本来なら壁板（再建時のものか）に穴が認められるはず。



本殿濡れ縁の高欄の小銃弾

弾痕には、撃ち込まれた方向に不自然なものが認められ、このことが戦間後再建の裏付けとなる。本殿濡れ縁の高欄の桁に見られる小銃弾は、下の床板側から射入している。



◀ 拝殿柱の基礎
※灯笼笠石。再建時の転用か。

熊野座神社境内

宮山の弾痕



※文化14年銘灯笼右側



※文化14年銘灯笼左側



※万延2年銘石祠

熊野座神社と周辺の石造物には弾痕が認められるものが多い。宮山争奪戦の激しさを示す資料といえる。認められるのは阿蘇熔結凝灰岩製の石造物で、安山岩など比較的硬質の石材品には認められない。当時の火力の限界によるものと考えられる。

※弾痕を特集した『年刊田原坂5010』では不掲載の資料写真を紹介する。

字宮ノ前の墓地

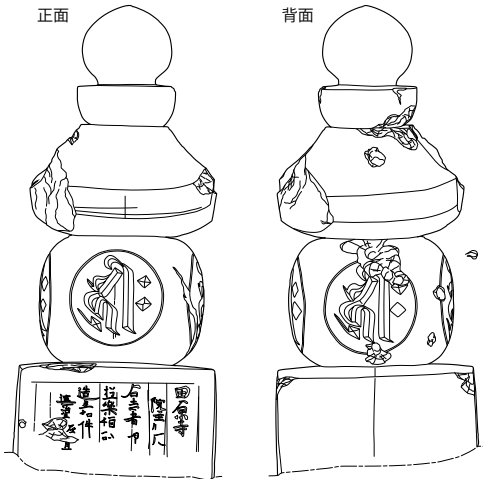


※文化8年銘墓石



※安政5年銘墓石

※弾痕は28箇所と密度が高い。これを楯にした兵を狙い撃ちしたためと考えられる。大きい欠失は砲弾痕の可能性が高い。



田原の五輪塔実測図

令和七年度、熊本市にご寄贈いただいたなかで、特に貴重な資料を紹介する。装杖。四斤砲（前装砲）に付属する木製用具である。砲弾・装薬（発射用の火薬）を押し込む弾込部と砲身内の火薬残滓などを清掃するブラシ部が両端にある。ブラシの毛が擦り減れば廃棄されるような消耗品であり、現存例は極めて稀である。



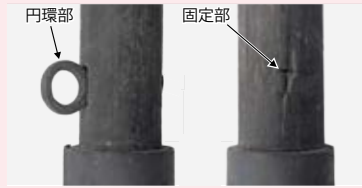
全長 137.5 cm
重さ 1.6 kg



ブラシ部



木柄部



円環金具



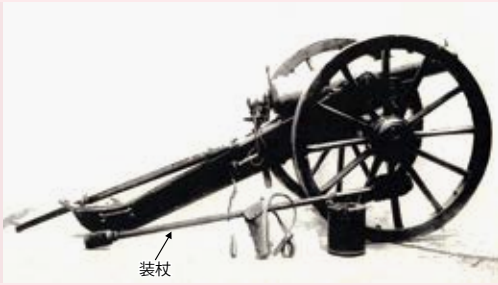
弾込部

ブラシ部
ブラシは獣毛か。これを八条の溝に針金と銅製鉋で植え付け、さらに隙間に膠を埋めて固定させている。ブラシ毛は摩耗し、頻繁な使用がうかがえる。

木柄部
樹種は樫か。ブラシ部に近い部分の塗装の剥げが著しい。弾込め時に握られ、摩滅したものと推定される。

円環金具
木柄を貫通し、下半は割ピン状に固定している。移動時、放射台のフックに掛けるための留具である。

弾込部
釣鐘形を呈し、先端と結合部に補強金具を嵌めている。径三・八cm、深さ二・九cmの削り込みがあり、内側端部は四斤砲弾頭部に合うように斜めに加工されている。



『兵器沿革史』（陸軍省 1913 年）掲載写真

【表紙】 3月6日、大阪鎮台第8連隊第2大隊所属洲本珉平と豊島玄之助は、田原坂右翼に配属されたその日に熊野座神社焼亡の猛火を目撃する。二人には…それは火の神カグツチから、これから続く激しい戦いの日々を告げられたように思われた。

熊本市田原坂西南戦争資料館

利用案内

- 開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)
- 入館料
一般 (高校生以上) 個人 300 円 団体 (20 名以上) 240 円
小・中学生 個人 100 円 団体 (20 名以上) 80 円
- 休館日 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで

ただし乳幼児、障害者手帳をお持ちの方、熊本市・鹿児島市・福岡市・北九州市に居住する 65 歳以上の方 (証明できるものを提示) と同市内の小・中学生 (名札か生徒手帳提示) 等の入場は無料です。



お問い合わせ

熊本市文化財課植木分室

〒 861-0195 熊本市北区植木町岩野 238 番地 1

☎ 096-272-0551

熊本市田原坂西南戦争資料館

〒 861-0163 熊本市北区植木町豊岡 558 番地 1

☎ 096-272-4982

